

①—3 新基本理念と新取り組むべきこと

新 基本理念	新 取り組むべきこと
(1)「ここに来れば堺が分かる」知の集積の場であること。 世界遺産「百舌鳥古墳群」や海外との貿易により繁栄した中世都市堺等、日本史上に存在感を示した堺が誇る文化遺産や歴史資料に関する調査、研究、展示の核となる。	①堺、南大阪における歴史・文化及びアルフォンス・ミュシャ等所蔵作品の資料収集、保管、展示、利活用の基礎となる調査研究を推進する。 ②資料や研究成果のデジタル化により、全世界と新知見の情報共有をおこなうことで、活発な資料活用や調査研究を実施する。
(2)モノにもヒトにも安全安心な場であること。 先人たちから受け継いできた資料を永続的に保管し、未来へ継承していく文化遺産の庫となる。全ての人に対して安全でやさしい空間を提供する。	③収集方針に則り、堺の歴史・文化に関する資料を収集し、適切な環境で保管する。全ての人が安心して利用できるバリアフリーな施設の管理、事業の運営をおこなう。
(3)歴史・文化を介してヒトをつなぐ場であること。 市民と連携・協働する地域コミュニティのハブとしての役割を担い、地域課題の解決にむけて取り組む。社会教育・学校教育の拠点として、誰もが学び、交流・対話の主役となる文化の広場をめざす。	④堺の歴史・文化を活用した地域との協働を進めるプログラムを提供し、地域活性化に貢献できる施設・体制を整える。学校教育のカリキュラムに応じた体験を準備する。 ⑤堺の歴史・文化やその背景について多面的に学べ、思考を促すプログラムを提供する。 ⑥堺市内の歴史文化関連施設の中核館として、関連施設との連携や価値の共創をおこなう。
(4)堺の歴史文化資源のブランド力を発信する場であること。 堺の歴史・美術資料がもつ魅力の相乗効果により生み出される新たな価値を国内外に発信する。幅広い層の興味、関心を惹きつけることで堺来訪の主目的たる施設となる。	⑦本市の歴史資料およびミュシャ・コレクションをはじめとする美術資料を一元管理することで、従来にない多彩な展示や体験活動をおこなう。 ⑧(仮称) 堀ミュージアムを起点とし、デジタル等も活用し、次なる学びにつながる市内周遊・観光を誘発する仕掛けをつくる。
(5)社会課題と向き合う場であること。 グローバル化、多様化する現代社会において、すべての人々に開かれ、平等に様々な経験を提供する。持続可能な博物館運営をおこなう。	⑨全ての人が学びの機会を享受できるユニバーサルミュージアムを整備する。 ⑩アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)と連携し、堺・日本の無形文化遺産の発信をすすめる。